



園 潔
SONO Kiyoshi

三菱UFJフィナンシャル・グループ会長
関経連副会長

関西再創造のためのイニシアティブ

今年5月に関経連の副会長を拝命し、関西のお役に立てる機会を与えて頂いたことは、大きな喜びであるとともに、その責務を全うすべく身の引き締まる思いです。

今般の就任にあたり、あらためて関西の現在について考えてみました。私は、関西は「ポテンシャルの宝庫」であると感じています。

日本のGDPの約6分の1を占める経済規模を持ち、産業面では、豊かなアイデアや、高い技術力を有する中小企業が集積しています。地域的には、成長力の高いアジア諸国へのアクセスに優位性を持ち、関西国際空港を中心とするインフラ面の整備も着実に進捗しています。そして何より、関西は、世界有数の観光資源、歴史や食といった文化資産、さらには「やってみなはれ」に代表される自由闊達でチャレンジ精神旺盛な「人」に溢れ、そうした誇るべき「ソフトパワー」こそ、関西の最大の強みであると思います。

さらに、これから関西は「オポチュニティの宝庫」でもあります。

奇跡の3年とも言われる、2019年から始まるゴールデン・スポーツイヤーズ、大阪・関西への2025年万博の誘致、そして、リニア中央新幹線の開業等、国家的一大プロジェクトが目白押しです。

こうした、豊富なポテンシャルそしてオポチュニティは、これまで諸先輩方が、侃々諤々の議論を通じ、地域発展のため真摯に取り組まれてきた果実です。これから千載一遇のビッグプロジェクトに臨むわれわれに求められることは、今一度、関西に眠る全てのポテンシャルを解き放ち、次の未来へ向け、「関西再創造のためのイニシアティブ」を發揮する、自覚と自信を持つことに他なりません。



その原動力となるのが、「多様性」と「チームワーク」です。

まず、大前提として、関西の役割は、日本の首都としての機能や、効率性が求められる東京とは異なります。いわば、東京に対する「アンチテーゼ」として、首都圏と「競争」するのではなく、「共創」していく姿勢が重要です。一極集中せず、補完性と多面性を確保すべく、関西発信で問題提起していくことが、広く日本全体の未来をより確かなものしていくと信じています。

また、さまざまな意見をぶつけ合い、一度決めたら一致団結して取り組んでいく「チームワーク」の強化に、これまで以上に力を入れなければなりません。充実したチーム力は、各プロジェクトの連携をより一層深め、それぞれが、オーガニックに結び付いていくことで、未来へ向け、日本経済再浮上の導火線へと繋がっていくと期待しています。

もちろん、われわれ関経連自体も、「多様性」と「チームワーク」が重要です。「関西再創造のためのイニシアティブ」をさらに牽引すべく、さまざまな分野から、さまざまな知見を持つメンバーが集い、闘争に議論することで、東京とは一味違った、関西独自のアイデア・意見を磨き上げていきたいと思います。そして、松本会長を中心としながら、チームワーク良く、会長がおっしゃる①グローバル化、②イノベーション、③地方創生、④スポーツ、この4つの切り口より、時に問題提起者として、時に実現に向けた旗振り役として、国や自治体等に対する働き掛けを積極化していかなければと思います。

私個人としても、「チーム松本」の一員として、これまでの諸先輩方の姿勢や取り組み等をしっかりと受け継ぎ、今こそ関西のポテンシャルを解き放つべく、その職責を果たしてまいります所存です。どうぞ、よろしくお願ひいたします。（談）